

リハハール

8
2019

Y E L L

第16号

「おはなし広場」開催中です！

脳血管障害などの後遺症で、「言おうと思ったことがうまく話せない」「音は聞こえるのに言葉の意味が理解しづらい」などの失語症のある方が、コミュニケーションを楽しむ場として「おはなし広場」を開催しています。

言語聴覚士を中心としたサポートのもと、新聞記事を読んだり歌を歌ったり、みんなでゲームをする中でコミュニケーションを楽しみます。ぜひ、ご参加ください。

開催日時は、毎月 第1, 第2, 第3水曜日の午前9時～午前11時
(1月と8月は除きます。)

※祝日の場合は休止とし、第4週目の水曜日に開催します。

対象者は、市内にお住まいの失語症のある方。参加費は無料です。

(電話823-1666, FAX842-1541) お問い合わせください。



イベントのご案内

電動車椅子講習会 第1回10月15日(火) 午後1時30分～午後4時

交通ルールや電動車椅子の講義を受けた後、いろいろなタイプの電動車椅子に乗車して操作の実習をしていただきます。電動車椅子利用をお考えの方、電動車椅子の利用をすすめる立場におられる方などふらってご参加ください。



体力測定&からだの相談会

9月24日(火)・10月29日(火) 午後1時30分～午後3時30分

○ 体力測定会 午後1時30分～

筋力、バランス、敏捷性、柔軟性、持久力などを測定。ご自身の体力について考える機会にしてください。

○ からだの相談会 午後2時45分～

ご自身の「からだ」のことで疑問に思っていることを医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士などがお答えします。



京都市はSDGsを支援しています。



Q1. 施設を利用できるのは？

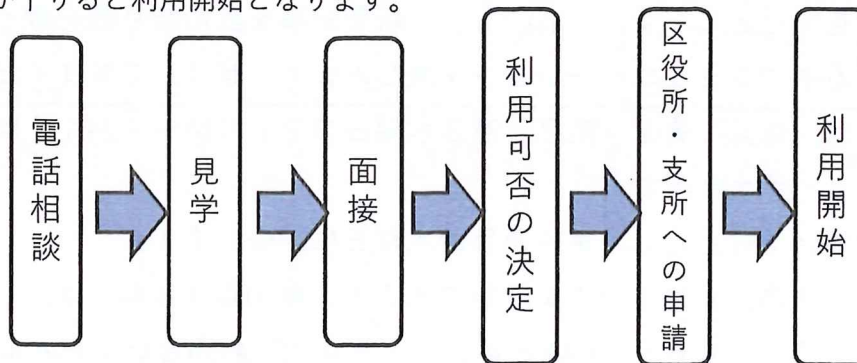
A. 高次脳機能障害と診断された方です。障害者手帳の有無や発症からの経過日数は問いません。

Q2. 提供しているサービスは？

A. 自立訓練の機能訓練(定員25名)と生活訓練(定員15名)があります。また、これらの訓練を受けるにあたり入所したほうが訓練効果が期待できる方は、施設入所支援(定員30名)が利用できます。短期入所も実施しています。

Q3. 施設を利用したいのですが、利用開始まではどんな流れですか？

A. 高次脳機能障害者支援センターの窓口(075-823-1658)に電話で相談してください。その後、施設を見学していただき、面接で現状の聞きとりや身体の評価します。入所検討会議を経て利用の可否を判断します。利用可能な方は区役所・支所へ利用開始の申請を行い、支給決定が下りると利用開始となります。



Q4. 移乗に介助が必要なんですけど...？

A. 腰持ち介助で殿部挙上が可能であったり、下衣の上げ下げなどが部分介助レベルであれば対応可能です。全介助が必要な方は十分な対応が困難なためご利用いただけません。詳しくは以下の表をご覧ください。

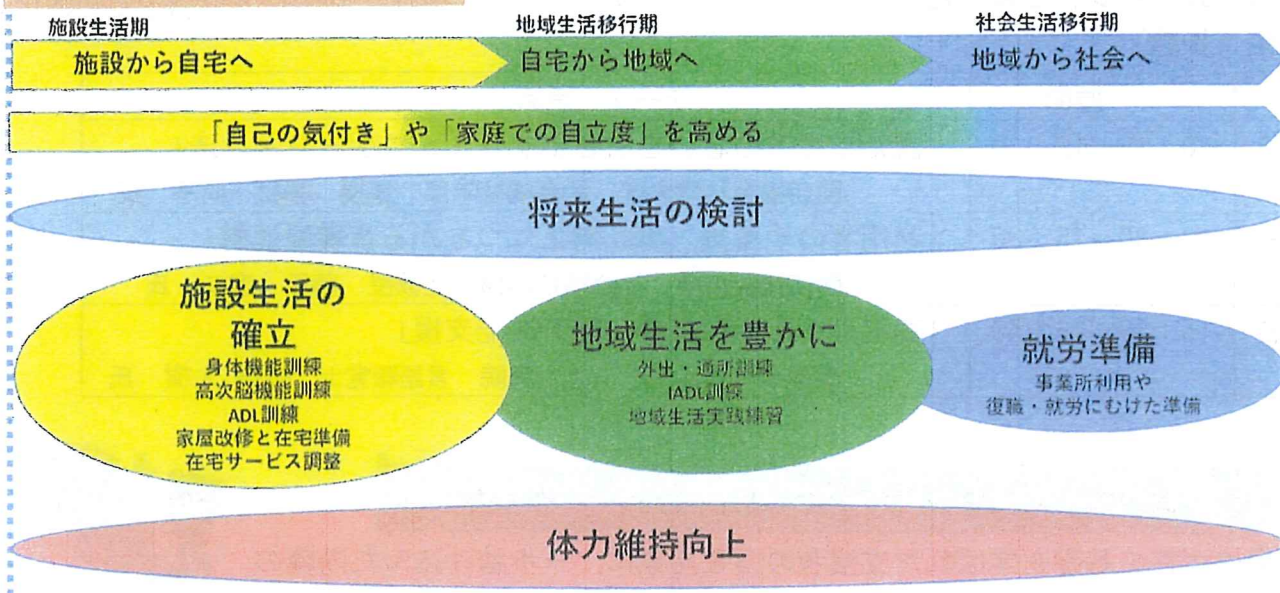
動作	利用可能な状況
移動動作	歩行（杖や歩行器，下肢装具の使用は問わない）もしくは車椅子駆動にて施設内移動自立レベル。
移乗動作	見守りや部分介助レベル。※手すりやベッド柵などの使用は可能。
トイレ動作	排便・排尿共にコントロールされている方。夜間の尿器使用は可能。 ※突発的な便失禁や尿失禁に対しては対応可能。 ※おむつの使用は，着け外し・後始末ができる方。
食事動作	箸，フォーク，スプーン，介助箸などを使用して自力摂取が可能なる方。 ※食塊をスプーンに乗せたり，フォークに刺したり，支援者が直接口元に運ぶなどの介助には対応できません。
入浴動作	風呂場（脱衣場，浴室）内の移動は，シャワーキャリーで介助可能。 ※集団浴では，階段昇降ができない方はシャワー浴のみの対応になります。
更衣動作	見守りや部分介助レベルの方。 ※ 全介助の場合は対応できません。



Q5. どんな流れでプログラムは進みますか？

A. 下記の流れに沿って目標を立て、それぞれの時期に応じたプログラムを実施していきます。

障害者支援施設の支援の流れ



Q6. 今までどんな方が利用されましたか？

A. 下記の利用ケース紹介をご覧ください。他に、「家の外に出る機会が減ってきて体力が衰えてきたので、もう少し動けるようになりたい。」といった希望で利用されていた方もいます。

利用ケース紹介

在宅生活の充実を目指したAさん 50代男性 くも膜下出血 右上下肢機能障害1級

日常生活動作の自立を目標に、通所で移乗動作と更衣動作の訓練を実施。職員間でも統一した関わりを行い、6カ月後には施設内車椅子自走、トイレ動作は見守りから自立となる

訪問リハや在宅介護の支援者に情報を提供し、自宅内や外出先でのトイレ動作も自立となり、地域生活における活動範囲が拡大

関連機関と連携し復職したBさん 40代男性 脳梗塞 両上下肢機能障害4級

注意障害や上下肢麻痺の影響による、処理速度や作業の正確性の低下と病識の乏しさに対し、認知リハや脳トレ、作業活動を実施。集団内でプログラムに参加する中で、徐々に気づきが得られるようになる

復職に向けての意欲を示されるようになったため、職業センターへ相談

職業センターで作業評価を受け、苦手と強みを客観的に本人へフィードバック。職場へは障害についての説明や必要な配慮について情報提供を行い、利用開始6ヶ月で復職

Q7. 短期入所を利用したいのですが、利用開始まではどんな流れですか？

A. お電話で簡単な聞き取りをさせていただきます。075-823-1658までご連絡下さい。利用調査票を送付させていただき、返送していただいた後、電話面接を行います。

研修に参加してみませんか？

参加費無料！！

地域リハビリテーション推進研修

発達障害や認知症に関することなど、
様々な内容の研修を6月より開催しています。
詳しくはホームページをご覧ください。
今後の予定（抜粋）



QRコードからも
アクセス可能です！

日	時間	テーマ・講師
9月27日 (金)	10:15~12:15	「認知症の方の思いを引き出すコミュニケーション法」 関西福祉科学大学 社会福祉学部 教授 都村 尚子 氏
10月4日 (金)	13:30~15:00	「利用者のやる気、QOL向上につながる多職種連携」 関西福祉大学 社会福祉学部 准教授 藤原 慶二 氏
10月4日 (金)	15:20~16:50	「高齢者のための摂食・嚥下機能支援」 京都リハビリテーション病院 言語聴覚士 徳島 大樹 氏

令和元年度 高次脳機能障害 支援者のためのステップアップ研修

高次脳機能障害の基礎を学ばれた支援者の方を対象に、一步踏み込んだ内容の
研修として、モデルケースのグループ検討や演習を取り入れた研修を行っています。



このような支援者の方にオススメです！！

- ケース検討を通し、地域生活への具体的なアプローチを学びたい
- 演習を通し体験しながら学びたい
- 他の支援機関と「顔の見える関係」を作りたい

<研修スケジュール>

11月29日(金)	第1回「障害特性にあわせた支援方法の検討」
12月20日(金)	第2回「環境調整や代償手段の活用、支援者の役割について」
1月24日(金)	第3回「作業手順書の作成演習」
2月28日(金)	第4回「移動手順書の作成演習」

※申込方法・詳細は、京都市高次脳機能障害者支援センターのHP
(<http://koujinoukinou-city-kyoto.jp/>)にあるチラシをご確認ください。

参加者の声

「職場の他のスタッフにも参加を勧めたい」「参加して、自分の支援方法を
振り返ることができた」「他職種の方の考えや視点を学べる良い機会です」



★編集後記★ 毎日記録的な暑さですね。センターの玄関ドアが開くたびに、ものすごい熱気が入ってきます。高校野球は、何かに夢中になる貴重な時期を過ごしている姿。たしか私にもあったはず。思い出して前向きに過ごしたいと思いました。

【リハ✿エール】第16号 令和元年8月発行
発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地
電話 075(823)1650(代表)
FAX 075(842)1545
Eメール rehabili@city.kyoto.lg.jp
京都市印刷物 第314509号